



# 天文資料

2019年 5月号

2019年度 第2号 (5月号)

平成31年 4月26日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



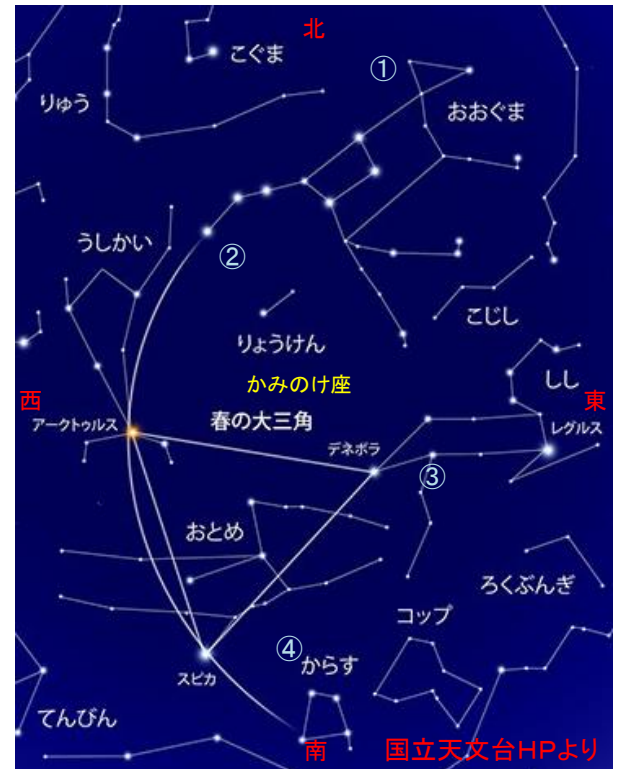
## ＜春は明るい系外星雲がよく見えます＞

5月1日から元号が平成から令和に変わります。何かが新しくなると、心の中にちょっとした変化が起こりますが皆さまはどんな変化を感じられるでしょうか。

それに関連して、4月27日(土)～5月6日(月)は10連休となりますが、少年科学館は下記の期日は開館しますので、ぜひご来館ください。

4月27日(土)、28日(日)、5月2日(木)、5日(日)、6日(月)

さて、4月号では「春の大曲線」「春の大三角」から星座を見つけましたが、5月号では比較的明るい系外星雲をご紹介します。この時期、天頂付近に「かみのけ座」という聞きなれない星座があります。この星座のある場所は、天の川銀河の北極方向になります。この方向は銀河の厚みが薄く、また光を遮る星間ガスも少ないため、遠い宇宙にある系外星雲を見ることができます。



右の星図に主な系外星雲の位置を示しました。しかし、系外星雲は数千万

光年も離れているため、暗い空のあるところに出かけ、望遠鏡を使わないと姿をはっきりとらえることはできません。

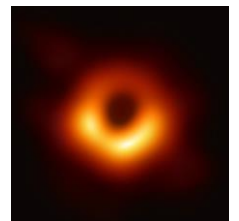


写真は光を蓄積できるのでこのように写りますが、人の目はそれではできませんので、ぼんやりとした光のかたまりにしか見えません。しかし、数千万年前の姿を見ていることになるので、「今はどんな姿になっているのだろう」と想像しながら観望するのも楽しいかもしれませんね。

※ 番号の前の「M」は星雲カタログを作った天文学者メシエの頭文字です。

## ＜史上初、ブラックホールの撮影に成功！＞

イベント・ホライズン・テレスコープは、地球上の8つの電波望遠鏡を結合させた国際協力プロジェクトで、ブラックホールの画像を撮影することを目標としています。その研究チームが、2019年4月10日、巨大ブラックホールとその影の存在を初めて直接画像で証明することに成功したと発表しました。今回撮影されたのは、おとめ座銀河団の楕円銀河M87の中心部に位置する巨大ブラックホールです。



このブラックホールは地球から5500万光年の距離にあり、その質量は太陽の65億倍にも及びます。(JAXA記事より)